

## 行仙宿・行者堂・水場の迎春準備

◇実施日：2016年12月24日(土) 晴時々薄雲 3℃

◇参加者：川島 功、橋本 梓、生熊敏男・千満子、児嶋道夫、

濱野兼吉、畑林秀味、山川治雄、高階美根子、

竹中卓治、梶野照雄。(岡室 進) 11名。

22日、日本海の低気圧は発達しながら進み、冬型気圧配置になり、23日午前中まで雨の予報であり1日延期して、本日の実施とした。この低気圧通過により、フェーン現象と強風で糸魚川大火が発生し、北海道は暴風雪となり新千歳空港では6千人が一夜を過ごす様な大荒れの天候となった。

本日は、風も無く晴時々薄曇りの天候になり、延期の甲斐があった。

山川氏の自宅より、小阪で高階・竹中氏を同乗させる。

浦向からのR-425号線の路面は、濡れているので早朝まで雨が降っていた様である。四ノ川林道に入ると、路肩の日陰に僅かに雪が残り、昨日一時は風雪模様だったと思われる。

補給路登山口に着くと、先着した梶野氏がモノレールを下しに駐機小屋へ鉄階段を登って行かれる。

直ぐに沖崎車(生熊氏運転)の新宮組6名が到着する。

梶野氏もモノレールを下ろして来られ、川島から本日の作業内容と浅村仏師から修復中の役行者尊像内に願文があり、元禄十五年(1702年)9月に奉造され、第37代聖護院門跡・道尊親王が開眼供養した由緒ある役行者像である事が判り、聖護院・宮城泰年門跡にご報告し、願文等の取扱の指示を仰いだ朗報を説明。重そうな荷はモノレールに積み、梶野・児嶋氏が先行。残りの人で登山口水場の注連縄を張替える。



作業前の始令



注連縄にシデ(生熊氏作製)を結わえて水場に張る

しばらくして自力下降して来たモノレールを駐機小屋で止め、生熊敏・川島・竹中氏がモノレールで終点へ。残りの方は徒歩。

第二ベンチ辺りからは、風も無く遠くまで眺望でき、大台ヶ原山頂が白く積雪している。

陽ざしもあり歩いてみると暖かく、佐田ノ辻に登ると何時も北西風があるが、風が殆んど無い状態であり、小屋前は気温3℃であるが、そんなに寒く感じない。

先行した梶野氏はストーブに火入れ、児嶋氏は発電機の点検準備をされている。

最後尾が登って来た時点で、宿内で全員コーヒータム、この間に作業班分けをする。

女性陣は、カマドでお湯を沸かして、宿内・行者堂の拭き掃除。

水場の注連縄張替えは、生熊・梶野・畑林・山川氏。行者堂の聖徳太子像安置に写経と共に奉納して頂いた奉納金回収と清掃は、濱野・川島。管理棟内の清掃と正月飾り及び玄関しめ飾りは、橋本・竹中氏。発電機の点検修理は、児嶋氏に分かれて10時半前から各班別に作業をする。



うつすら積雪の行者堂



作業前の休憩

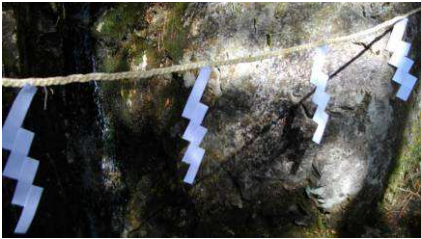


聖徳太子像内写経奉納金

聖徳太子像台座内から五百円硬貨250枚の奉納金を回収し、濱野氏は賽銭箱・宿内の志納金箱の志納金も年度末なので回収。堂内の花立には、凍結を考慮し生花から造花シキミに取替える。玄関のしめ飾りは、先日購入の脚立を使って供え付ける共に宿内の表彰状掲額箇所、11月末に受賞した第47回社会貢献者表彰状も追加掲額する。



行者堂内清掃



行仙水場の新しめ縄



発電機点検中



管理棟のしめ飾り



行仙宿のしめ飾り

発電機は、プラグ交換やガソリン入れ替え等の点検修理を行うが始動せず、シリンダー辺りが不具合との事から、専門業者で修理する必要がある、新宮へ持ち帰る事にする。11時40分頃に水場班が戻り、管理棟・行者堂、行仙宿内の正月飾りも供え付けられ12時前から昼食。



くつろぎ歓談の昼食



正月飾りを囲んで全員撮影





宿内の正月飾り



聖徳太子像の迎春飾り



生熊氏導師で勤行



発電機は2本の荷い棒に結わえ二人で運ぶ



作業後の終礼

11時頃OBの岡室さんが、太いザイルを背負子に背負って登って来られ、継ノ窟へのルートに張ると小休止後出掛けられ、12時半前に戻って食事をされ、一緒に記念撮影をして、先に下山される。岡室さんは、お1人で黙々と歩かれる方で、小池の宿址を最初に探し出された方である。

記念撮影後、生熊氏導師にてローソク灯明と線香を立て、本年最後の勤行をする。

その後、便所周りの掃除と作業の後片付けを済ませ、最後に戸締りをして、本年度60回目の作業を終え下山する。

発電機(約35kg)は、2本の荷い棒に結わえて前後二人で、竹中と山川、川島と児嶋、竹中と橋本氏の交代でモノレール終点まで慎重に運び降ろす。

モノレール架設により、急傾斜のジグザグ道を通らないので本当に助かる。無ければ長い荷い棒ではターンしづらく難儀するだろう。水場手前の濡れた栈木に足を滑らせ、一回転半転げ落ちて、下の折り返し道で止まるという事態が発生したが、幸い大事に至らず安堵する。一步間違えば本当に危ないところであった油断禁物！

本年最後の行事に、多くの方に御協力頂きありがとうございます。次年度も引き続きご支援ご協力をお願いしますと締め括り解散。

カナウナギトンネル手前で車とすれ違う。白谷トンネルで、通行止めを知っているか聞いたら良かったかなー、トンネルまでもう少しだから引返しても・・・まあー良いかと浦向へ走行する。

後続の梶野氏は、車を止めて聞いたら通行止めは知らず一緒に戻り、高野山へ行く五條ルートまで案内したとの、親切な善行を帰宅後掲示板で知る。

### 行動タイム

8:40 補給路登山口 9:00→9:45 行仙宿(休憩)→10:25 作業 12:00  
↓昼食 12:40→12:55 勤行・作業↓行仙宿 13:30→14:15 登山口・  
解散 14:30。

### 寄贈者

- ・ 吉開賢淳；海苔1箱(10束)。
- ・ 三井幹雄；高性能ラジオ。

(写真：梶野・川島。 記 川島)